



ロータリー鼎談

てい だん

R I 直前理事 渡 辺 好 政 先生
 パストガバナー 清 水 幸 彦 先生
 パストガバナー 道 下 俊 一 先生
 コーディネーター 足 立 功 一 ガバナー

足立 ロータリーを語る第2部は、「私とロータリー」と題して1部で発表された4人のお話を含め、お3方のパストガバナーに「ロータリー鼎談」ということで、ざくばらんにロータリーを語っていただこうと思います。先ずは道下先生からお願いします。

道下 発表された4人の方のお話を聞いて、皆さんロータリーを心底楽しんでいらっしゃる、そんな感想を持ちました。今井さんも杉本さんも、これだけロータリーを楽しんでいらっしゃるれば、今後お辞めになることは、先ず無いだろうと確信いたしました。(笑い)

特に女性会員として発表された柴田さん、かつてソロプチミストに在籍されたこともあるとのことですが、ロータリー歴3年足らずとは言え、ロータリーの理念を見事に掌握されていると伺います。今後女性の立場から、どしどし意見を述べていただき大いに活躍していただくことを期待しております。

こんな話がございます。それは、女性会員の入会を拒み続けてきた某クラブのことですが、社会奉仕委員長は男性が務め、老人ホームの慰問を活動の柱としてやっておりました。毎年の慰問に際し、金一封とか杖やシーツなど贈るのですが、老人たちはあまり喜んでいない様子もなく、どこそこの団体はもっと素晴らしい杖をくれたとか、お金はもっと多かったとか、そんな言葉が陰で囁かれていると言うのです。

そんな折、このクラブにも女性会員が入会し、早速社会奉仕委員長になり、老人慰問の担当になったそうです。彼女は先ず、老人たちは何を欲しているのかを調べました。老人たちは、「われらは十分な年金をもらっているし、これと言って欲しい物がある訳じゃない。われらを癒してくれるのは、孫の元気な声や小さな子供たちの笑顔だよ!」と、語ったのでありまして、その後彼女は、幼稚園を運営している会員の園児を連れて慰問を実行しました。老人たちは子供たちの歌や踊りに目を潤ませ、子供たちが帰る時には、お菓子の土産まで自

分達で買って贈ってくれたそうでもあります。

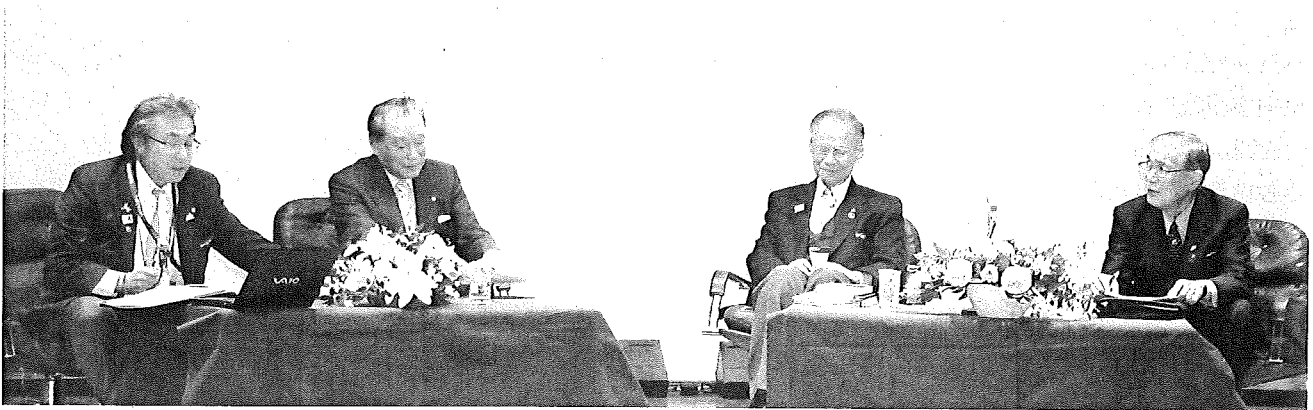
と言う訳で、女性の感性や誠実さは、これからのロータリーに絶対必要なものです。柴田さんの今後の活躍を期待しております。(拍手)

足立 清水先生はいかがでしょう。

清水 私がガバナーをさせていただいたのは、1981~82年でございまして、相当古い話になりますので当時をご存知の方は少ないのですが、先ほど弟子屈RCの小家山さんが私がガバナーの時のクラブ幹事として、久し振りにご挨拶させていただきました。その頃は7・8分区は1つでございました。分区代理が白糠RCの新保さんで、一緒に公式訪問で釧根を回りました。ただ、エリアも広くクラブ数も多いということで翌年度から7分区と8分区に分かれました。しかし、両分区はその後大変仲が良く、パスト分区代理さんたちで「7・8会」を作り交流をつないでおりました。今日のスローガンは「分区を乗り越えて」ですが、これからは、分区ばかりでなく、地区も、お国同士も、垣根を乗り越えて手を結んでいかねばならない時代です。その1つが福井さんのお話されたGSE事業だろうと思います。

私の頃は地区会員は2,850人、地区3千人と呼称していた時代です。今は2,500人を割った状況ですが、来年のテーマは「ロータリーの未来はあなたの手の中に」だそうですが、手の中ということは、心の中ということで、心からロータリーを大切にしていって欲しいと願っています。

足立 地区の会員数ですが、海田年度から2,358人で引き継ぎ、一時2,415人までいったのですが、1月に入って2,384人に戻っています。この地区で20人を割るクラブは18ありまして、近年、中川クラブ、佐呂間クラブが終結し、私の年度でも問題のあるクラブがありまして、存続に努力していただくよう、担当ガバナー補佐とも連絡を取り合いながら尽力しているところです。会員数のことも含めて渡辺先生いかがでしょうか。



渡辺 先ず持つてお詫びをしなければならないのですが、時計を逆さに見ておりました、講演時間をオーバーしてしまいました。(笑い)

会員の数のことですが、弱いクラブ、必ずしも小人数のクラブとは限りません。100名を超す大きいクラブでも弱いクラブは沢山あります。18世紀のアメリカで、公用語を英語にするか、ドイツ語にするか、議会で評決を採ったところ、1票の差で英語に決まったそうです。イギリスでサッチャー首相が誕生したのも、ドイツでヒトラーが政権を取ったのもその1票の重みです。「ロータリーの未来はあなたの手の中にある」というのは、1人の会員のロータリーに対する愛や夢、その念(おも)いが、全体を動かすと言うことではないでしょうか。

足立 ここにいらっしゃる3人の先生は、日本のロータリアンのトップクラスのリーダーでいらっしゃいますが、吾々はどうしたら、その域までに成れるのか(笑い)、入会の動機などを含めてお聞きしたいと思います。

道下 トップリーダーかどうかは別にして、私の浜中での診療生活は、本になったりTVドラマになったりしましたが、ポールハリスがロータリーを起したのは、「友達が欲しかったからだ」と述べておりますように、確かに赴任当時は友達も居らず寂しい思いをしましたし、廃的な目にもありました。ちょうどその頃、日本のロータリーは拡大を続けていた頃で、因に、日本で町制の地域で最初にRCができたのは、弟子屈クラブです。1957年の誕生ですが、それから11年後の1968年に釧路北RCのお世話で浜中クラブが誕生しています。

釧路北クラブに曾宇さんという手続要覧の権化みたいな分区代理がおりました。凄い人です。その方を先頭にいろいろな方が、浜中までの砂利道を時間をかけて何度もやって来てくれ、ロータリーを熱く語ってくれました。私は必死になって、設立条件の20名を集めました。

当時の釧路北RCには、素晴らしい方が沢山いらっしゃって、ガバナーの親戚に当る橋本さんもその1人でした。

社員の躰も徹底しており、会社に訪れるお客さまには社員総立ちでご挨拶をされる会社でした。ある時、「会合があれば必ず灰皿やスリッパは必要だろう。誰かが準備してくれるだろう・・・じゃダメなんだ」とお叱りを受けたことを鮮明に覚えています。

浜中RCが出来たのは、日本で最初のRI会長になった東ヶ崎会長の時でして、曾宇さんに言われてハワイの世界大会に出席しました。ロータリーをやる様になってから、変わったものがあります。それは年賀状の数がそれまでの数倍になったことです。1984～85年にガバナーをさせていただきました。世界の各地から、クリスマスカードも届くようになりました。私はロータリーを益々好きになりました。私の浜中での後半の人生は、正直、ロータリーが支えてくれました。今、私も家内も本当にロータリーに感謝しております。

先だってあるクラブで、「ロータリーは金集めの団体になったのか?ロータリーの魅力は何処へ行ったのか?」と問われました。ラビッツア元会長(1999～2000)は「世界のロータリーは衰退の一途をたどっている。不況だからではない、ロータリーに魅力が無くなっているからだ」と断言しました。かつてロータリーには、入会に際し厳しいテリトリーがありました。厳しい出席規定がありました。1業種1人の原則もありました。そういう厳しさがロータリーの魅力となっておりました。

そういう厳しさの中で、人格を磨き、職業の倫理性を高め、地域に奉仕する。それがロータリアンに問われた姿勢でした。ミートホープにしろ、赤福にしろ、吉兆もしかりです。全て職業倫理をないがしろにしたところから発しています。吾々は、「四つのテスト」を今一度噛み締める必要があります。

タイ国から出たビチャイ会長(2002～03)は、「職業奉仕こそロータリーの原点である」と叫びました。また、インドから出たサブー会長(1991～92)は、「ロータリーは倫理運動である。高い倫理を職場で生かすことができ

ない者は、ロータリーを去れ」とまで、厳しい言い方をしたのであります。渡辺先生も今日のお話にあったように、国際協議会で「職業奉仕がロータリーの根幹である」と、説かれたのであります。講演を聞いた友人から素晴らしい講演だったと電話が入りました。(拍手)

清水 私は釧路に来ました時は、市立病院の院長さんのお宅のそばに住んでいまして、その方がロータリアンだったものですから、すんなりロータリーに入会できたのですが、かつてロータリーに入るのは至難の技と言われておりました。入会するのに某奉仕団体に所属し、席が空くまで何年も待ったと言う方もおられました。今は「頼まれたから入ってやった。だから辞めるのも勝手だろう」と言う方もいますが、とんでもないことです。

ロータリーは嚼めば嚼むほど好い味が出てきます。やればやるほどその良さが分かってきます。ここにいらっしゃる皆様、お1人お1人は石ころじゃないんです。石ころは幾ら磨いても石ころですが、皆さんは磨けば磨くほど光る玉なのです。皆さんそれぞれが素質を持った方なのです。そのためには若干の知識、勉強も必要でしょう。しかし、もっと大切なものは、ロータリーを好きになり、世界の人々を好きになることです。好きになる心が大事であります。息の長いロータリーです。手をたずさえてやっていきましょう。(拍手)

足立 渡辺先生お願いします。

渡辺 今、清水先生がお話になったように、ロータリーに入会するのに何度も断られた経験の持ち主で、やがてR Iの会長になった方がいらっしゃいます。その方はクリフォード・ダクターマン元R I会長(1992~93)さんです。2007年の規定審議会で私が席を同じくした時に、ある方がダクターマン元会長にお聞きになった。「どんなことがきっかけでロータリーに入会されたのですか?」、ダクターマンさんはお答えになりました。「私は組織のNo.1でなかったことから、1度ならずも2度までも入会を断られました」。(笑い)

大学で下位の立場にいた頃の出来事だそうですが、その後、副学長に選ばれて初めて入会が許可され、やがてR Iの会長まで上り詰めるのですが、いわゆるロータリーで磨かれて玉になられたということでしょう。

私もまさかロータリーに入って、R I理事まで務めるとは思ってもみませんでした。道下お師匠さんや清水大先輩に出会い、事あるごとに厳しくご指導いただきました。ロータリーの出合い、一期一会に感謝しております。(拍手)

道下 清水先生が仰ったように、昔は入会は本当に厳

しいものでした。14段階の選考があり“入れていただくロータリー”でした。ロータリーバッジはその地域でのステータスであり、誇りでした。今は“入っていただくロータリー”になりました。(笑い)

足立 お聞きになった様に、各々の入会の動機がある訳ですが、発表された今井さん、杉本さんも「入会当時は不良会員だった」と言われております。かく言う私も決して褒められた会員とは言えませんでした。必ずその中にはターニングポイントがあったはずと思いますが、そのあたりのことをお聞きしたいと思います。

道下 今日はIMと称しておりますが、昔はIGFと言って朝から4大奉仕について1日いっぱい勉強し、徹底して討論しあったものです。新入会員には、朝7時から別に研修を行ったこともありました。そういう厳しい中にこそ得るものが沢山あって、皆さんロータリーを続けてこられたのだと思います。

足立 清水先生いかがでしょう。



清水 実は大事にしている私の宝物がございまして、何時も机の中にしまっているのですが、今日、持ってまいりました。ご披露させて下さい。

足立 バッジですね。

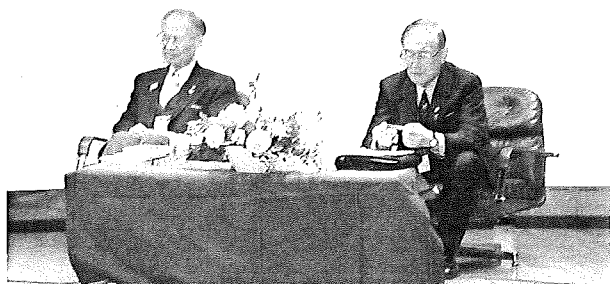
清水 そうです。1つは入会1年目を経過した時に、100%出席という事でいただいたものです。「1」という数字が刻まれております。もう1つはガバナーを終えた時いただいたもので、ダイヤモンドが入っております。無くすと勿体ないので、机の中にしまっております(笑い)。時々開けて見まして、入会した時の気持ちや、ガバナーをさせていただいた時の気持ちを何時までも忘れないでいたいと思いつつ眺めております。

ロータリーに入るといろんな役職が回ってきます。役職につくことでロータリーが分かってまいりますし、ロータリーで役に立っているのだと言う自覚も生まれてきます。頼まれたことは、進んで引き受けることでロータリーが好きになってまいります。先ほど福井さんがG

SEのお話をされましたが、私も1978年GSEでカリフォルニアを訪れております。その時、後にRI会長となるマキャプラーさん(1981~82)や渡辺先生がお話したクリフォードさんと知り合いになっております。

もう一言よろしいですか、1983年と1986年に規定審議会の代議員をやったことがございますが、女性会員入会の提案がありまして、私は断固として反対した1人でした。現在はすっかり宗旨替えをしておりますが(笑い)、1989年、道下先生がシンガポール会議に行った時から女性会員に門戸を開いたわけです。私の在籍する釧路クラブは、会員100名近くになりますが、残念ながら今だ女性会員が入会しておりません。どうも「清水の目の黒い内はダメだ」と言われているらしいのですが(笑い)、そんなことは決してありません。宗旨替えをした今、女性であろうが無かろうが、優秀な方はどんどん入っていただきたいと願っております。

足立 渡辺先生お願いします。



渡辺 私はスポンサーの先輩のお二人に「ロータリーにはNOは無いよ!」と言われ、30歳ちょっとで入会させていただき、5年目にクラブ幹事をさせていただきました。その頃からロータリーにのめり込むこととなります。医者の世界は縦社会ですが、ロータリーに入って横社会の繋がりができ、それが現在に繋がっております。そんな中で2年間RI理事を務めさせていただいて、本当に感謝しております。

足立 最後になりますが、ロータリーに入会してから人間関係、特に尊敬し合う師弟関係となると、一生継続人間関係が生まれます。地区では、RIの研修リーダーを務められた方は、清水先生と道下先生しかおられません。道下先生がRIの研修リーダーの時にガバナーエレクトだったのが、渡辺先生で、渡辺先生が研修リーダーの時に私がエレクトでご指導を仰ぎました。そこで生まれる緊密な人間関係は、ロータリーマジックの1つなのではないでしょうか?

渡辺 そうですね、私にとって道下先生は、ロータリーの恩師となります。お師匠さんから「ワタナベ・ロータリーを語れ!」と言われると、励ましになります。また、清水先生はRI理事を選ぶ選考委員をされました。先生からお電話をいただくことも何度かありまして、そのような人間関係の中で過ごしてまいりました。大変有り難いことだと思っております。

道下 外国で渡辺先生が私を紹介される時、マイ・ティーチャーと言って紹介下さるので、いつも恐縮しております。正に出藍の誉れそのものですが、この度の「決議23-34」を小沢理事とお2人で守られたご功績は、日本のロータリアンは高く評価しなければなりません。

「23-34の決議」はロータリー哲学であり、本来手続要覧の冒頭に掲載されるべきであります。社会奉仕のページに入っているのはおかしい、と自論をRIの会議で熱く語ったことがあります。賛同が得られないでいましたら、「オーナーロータリー」を唱えたコスタ元会長(1990~91)から「今RIは、ポリオ撲滅に全力を傾けているので、職業奉仕の大切さや、ロータリー理念は隅に追いやられている。しかしミッチーとは、ロータリー哲学を今後も語りあいたい」との言葉をいただいて溜飲を下げたことがございます。その時より「決議23-34」は、何時か消える運命にあるのでは無いかと、予感をしていたのですが、今回は渡辺先生と小沢理事のご尽力で手続要覧に残ることになりました。吾々はこのことを忘れてはいけないと思います。

更に付け加えさせていただきますと、足立ガバナーはロータリーの将来を背負う日本の最右翼のリーダーであります。ガバナーを受ける時、「道下先生から言われた以上命をかけてやります。しかし終わった時、病院が潰れていた時は誰が責任をとってくれるのですか?」(笑い)と言われましたが、潰れないでここまで来ていることにホッとしております(笑い)。残る数カ月頑張ってください。

清水 歳をとるとトキメキを忘れてしまいます。トキメキを持ってロータリーに接して下さい。共感と言う言葉があります。皆さんがロータリーを好きになって下さい。そうするとロータリーの方も必ず皆さんを好きになってくれるはず。子供を育てるには、可愛がって慈しんで育てます。ロータリーもそうです。ロータリーを可愛がって育てて下さい。ロータリーの未来は皆さんの手の中にあります。皆でロータリーを育てて行きましょう。(拍手)

足立 どうも有り難うございます。時間がまいりましたので、これをもって鼎談を終わらせていただきます。